

①本町の幹部候補養成はどのように行っているか。  
②退職する幹部職員の後任者は自治大学の研修を終えて配置されるのか。  
③研修を全く受講せず配置される場合があるとすれば、配置後どのような対応を取り、スムーズな業務執行を進めるのか。

**高薄町長**

①幹部養成のひとつとして自治大学で行われている研修を受講している。  
②他の研修も受講しており、自治大学の研修を受講したから配置されるというものではない。  
③職員はさまざまな研修を受講してきており、課長職は必ず課長補佐職を経験した後に配置される。引き継ぎを確実にやって業務を進める。

**いじめ防止対策**

木村好孝 議員

文部科学省は「学校い

じめ防止基本方針」に沿った対応の取組点検と見直す等の措置を通知で求めているが、各学校の取組状況と、必要な改善措置の状況について伺う。

**三澤教育委員長**

情報の共有と報告がなされているか、組織として機能しているか、さまざまな兆候や懸念など全ての教職員から情報が収集されているか、計画的・組織的に実行されているか等の点検は全校で実施している。更に、校内研修の実施や体制の強化、基本方針の公開の取り組みが進められている。

**教職員の勤務実態と改善課題**

木村好孝 議員

文部科学省は教職員の深刻な長時間勤務の実態から「学校現場における業務改善のためのガイドライン」をまとめているが、本町の教職員の勤務

実態について伺う。

また、「改正地方教育行政の組織及び運営に関する法律」による新教育委員会制度への移行にもない、教育行政への町長の考えを伺う。

**三澤教育委員長**

教材研究や指導の準備などに加え、部活動や少年団等で多忙な状況にあると認識している。

業務が特定の教職員に集中しないよう、改善を進めている。各学校長と相談しながら、事務処理の効率化、簡素化を図るよう努める。

**高薄町長**

これまで培われたものの再確認をしながら、教育大綱の策定や諸課題について、教育委員会との連携をより一層強化して取り組んでいきたい。今の子どもたちをめぐると問題は多岐にわたり、かなり複雑になってきているので、環境の整備ときめ細やかな対策が必要である。

**冬季道路の安全確保**

奥秋康子 議員

本町においても吹雪による視程障害や吹きだまりが交通の障害となっており。特に道道から町道に移管された道道忠別清水線から道道帯広新得線の交差点までの区間は負の要因が多くあり、交差点のセンサー式信号機は、吹きだまりができると作動せず、車が動けなくなることたびたびある。防雪柵等の設置が必要と考えるがいかがか。

また、この区間が町に移管された理由は。

**高薄町長**

防雪柵等の設置は視界の障害にもなる。安全な状況をつくらなければならぬので、さまざまな意見を聞いて調査する。町道への移管は、屈足方面から来る車が増加し、北海道の調査結果を受け、

道道忠別清水線を変更したことによる。平成3年の臨時町議会で議決され、町道の認定を受けている。



風雪による吹きだまりは、冬道における交通安全の課題である。

**老朽化に伴う福祉館の改修・改築計画は**

奥秋康子 議員

築30年以上経過している福祉館は、冬場での屋内環境が厳しく、特に水回りにおいては凍結対策への配慮が大きな負担となっている。老朽化を放置すれば劣化が進み、ますます大きな財政投資が必要になるが、施設の改修、改築計画はどのようになっているか。公共施設の情報を一元管理して、常に町全体を

意識した計画的な整備が必要と考えるがいかがか。

**高薄町長**

福祉館は町内に12箇所あり、そのうち6箇所は30〜40年経過している。順次修繕や備品整備をしてきているが、トイレの改修をしていないので、地域要望等を含めて協議する。

具体的な改修・改築計画は策定していないが、それぞれの施設の老朽化を考慮し、計画を策定していきたい。

**高齢者タクシー乗車券助成事業の拡充**

佐藤幸一 議員

この事業を高齢者の閉じこもり防止策として、例えば介護認定を受けていない70歳以上の独居世帯や75歳以上で構成する世帯にも拡大する考えはないか具体的に伺う。  
①現在の対象者数と利用実績は。